

(仮称)あいかわ俳句かるた

〈読み札の候補句〉

〈作者〉

あ 青田風水道路の一直線 (佳也)
い 糸を繰る霜焼けの手の若き日々 (修子)
う 乳母車一人は抱っこ花の下 (香景)
え 絵手紙は里の漉き和紙楮咲く (里詩)
お 落ち葉降る二百階段閻魔堂 (寿子)

か かわせみは幸せ運ぶ町の鳥 (中学3年)
き 木のベンチ秋の瀬音の真ん中に (育子)
く くみひもに春の気持ちをのせてあむ (小学5年)
け 弦月の旗立松へ光矢射る (尽誠)
こ 古民家の天井高く吊し雛 (尽誠)

さ 笹舟の旅は水澄む中津川 (千鶴子)
し 志田・仏果碧き山河へ春の月 (香景)
す 水門を開き五月の水はしやぐ (貧交)
せ 青龍と緋龍吼え合う滝の渦 (里詩)
そ 傍に来て仔牛あまえる牧開き (佳也)

た 弾痕の平山橋や初時雨 (弘己)
ち 竹林をぬけくる風に鮎香る (由紀子)
つ 兵の夢の後さき赤とんぼ (沙羅)
て 鉄塔の聳える嶺や夕紅葉 (弘己)
と 棟梁の鑿打つリズム秋日和 (光興)

な 名にし負う半僧坊の美女祭 (佳也)
に 虹を生むダム聳え立つ郷はずれ (佳也)
ぬ ぬかる田の田植え終わって風生まる (寿子)
ね 燃糸機の消えて久しき夕河鹿 (里詩)
の 野菊咲くかつて軍機の納庫跡 (尽誠)

〈読み札の候補句〉

〈作者〉

は 春を告ぐ八菅の杜に^{もり}炎立^{ほむら}つ
ひしひしと乾く青さの^{ほうき}箒草
仏果山まるごと蟬となる日暮れ
碧天の耕地行き交う稲刈機
ほうたるの光が描く未来の図
(由紀子)
(貧交)
(純一)
(佳也)
(中学3年)

ま まんさくが咲きましたねと車椅子
み 三増宿子の舞ゆかし祭り獅子
む 虫に寝て瀬音に目覚む^{かい}峡の宿
め 明月や田代城址に守護の神
も もののふの通いし峠わすれ雪
(貞利)
(尽誠)
(陽子)
(有子)
(梢葉)

や 山眠る^{ふところ}懐^{ふところ}深き湖^{うみ}を抱き
ゆ 夢に酔う地酒蓬菜温め酒
よ 四方の春竜宮城の鐘をつく
(紅)
(衣江)
(佳也)

ら 落葉の「ふれあいの村」子の学び
り 竜胆^{りんどう}を手向^{たむ}けし峠三増宿
る 累代^{るい}の伝統担ぐ荒御輿^{みこし}
れ 霊苑の幾山つづく^{やしろ}鰯雲
ろ ーマ字の絵馬ある社夕時雨
(尽誠)
(尽誠)
(佳也)
(貧交)
(寿子)

わ 若竹のしなう音聞く八菅山
ん 運勢の吉たまわりし初御籤^{みくじ}
(トシ子)
(佳也)

※「を」・「ゐ」から始まる句は不選とする。

※作者欄の小・中学生は、入賞当時の学年で記載。

令和七年三月十一日

まちづくり愛川・俳句大会実行委員会

